

「西塩子の回り舞台」裏方ばなし ～頭をひねる「道具帳」作り～

前は、歌舞伎座で働くプロの方々には協力いただいた舞台背景製作の様子をお伝えしました。今回は、これらの舞台背景を他の大道具と組み合わせ、いかに段取りよく使うか知恵を絞る、というお話です。

大歌舞伎の道具帳

地芝居や地方回りの小劇団に対し、団十郎や歌右衛門などの有名役者が演じる歌舞伎を、尊敬の念を込めて「大歌舞伎」と呼びます。その大歌舞伎の大道具は、1/50の縮尺で舞台背景やセットを描いた「道具帳」を基にして作られています。7・8月に製作した舞台背景の原図も、歌舞伎座の道具帳作りを担当されている田淵さんが描いたものです。



「白浪五人男 稲瀬川勢揃いの場」道具帳（田淵宜孝氏画）

なんちゃって道具帳

大歌舞伎の道具帳は、大道具を作るために描かれるものですが、今回話題とする「道具帳」は、舞台演出とプログラムを速やかに進行するための覚え書き。西塩子の回り舞台での公演のために独自に編み出した、いわば「なんちゃって道具帳」です。



西塩子の舞台は、平舞台の後ろに一段高い「二重」と呼ばれる舞台があり、その段差部分をケコミといいます。舞台背景の上部をランマ、下の広い部分をフスマと呼び、それぞれ木枠に張った紙の表裏に風景や図柄が描かれています（写真上参照）。この3種の背景画から、演目ごとにふさわしいものを選び、セッティングするわけですが、回り舞台を使う場合の手はずや、次の演目開始までの時間を短縮するための仕込み、見物の人々を楽しませる工夫等々、こなさなければならない作業は複雑で、毎回大いに頭を悩ませます。

役者は花道から登場するのか、回り舞台を使うのか、大道具の配置、三味線や太夫の演奏位置など、事前に打ち合わせを行い、演目ごとの完成した舞台と次の演目へのスムーズな転換を繰り返しイメージして、「なんちゃって道具帳」を作り上げていきます。

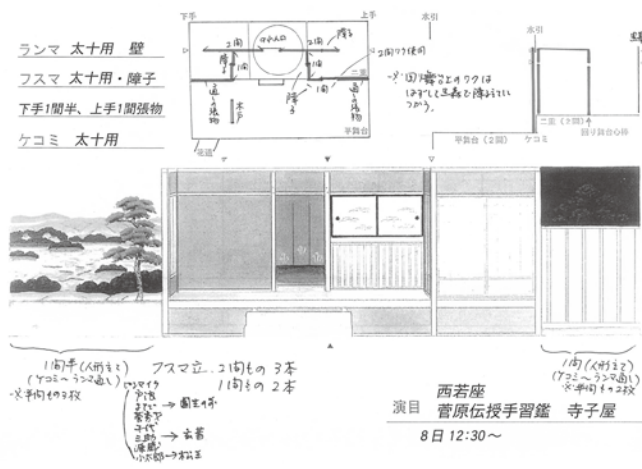
「ブデエマワシ」の心得

とはいえ、何年かに一度素人が考える舞台演出。事前に大道具転換の練習はするものの、学生ボランティアなど初めて顔を合わせるスタッフも多く、公演当日の幕が引かれた舞台の上では、てんやわんやの作業の連続です。

西塩子では、舞台の大道具方を「ブデエマワシ」（舞台回し）と呼んでいました。言い換えれば「舞台を円滑に準備・操作する役」。当日の舞台裏は、限られた時間で多くの道具が出し入れされ、つい扱いが粗雑になって、大事な道具を傷めます。そこで、道具帳の表紙には「心得」が書かれています。

- 一、フスマ・ランマ・ケコミの扱いは丁寧に！
- 一、高所での作業はくれぐれもご用心！
- 一、飲みすぎ注意
- 一、時間はあるぞ、あわてるな

今年の西塩子の回り舞台をご覧になる時は、芝居だけでなく、ブデエマワシの仕事ぶりもチェックしてみてください。



西若座の「寺子屋」道具帳（平成20年作成）

緊急速報！

常陸大宮市『常陸風土記』1300年記念オリジナル芸能公演を「西塩子の回り舞台」で開催決定！！

日時／10月26日（土）10:00～12:00

内容／山方南小児童による創作舞踊劇「鏡岩」（堀馨予作・演出）の上演と市内民俗芸能の公演

※引き続き同日午後には「茨城県郷土民俗芸能の集い」が開催されます。併せてお楽しみください。

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450 FAX52-5233

※月曜日・祝日休館

西塩子の回り舞台保存会公式ホームページ

<http://mawari-butai.jp.org/>